



VMware[®] Server 2

サーバ仮想化を安全に評価、実現

概要

VMware Server は、幅広いオペレーティングシステムおよびハードウェアをサポートしており、安定性が高く使いやすいホスト型仮想化プラットフォームです。初めて仮想化をご利用いただく方にも、優れた仮想化テクノロジーを体験していただけます。今回リリースされるバージョンでは、直感的な Web ベースの新しい管理インターフェイスが導入されており、Windows[®] および Linux ユーザーに継続的な管理環境を提供します。VMware Server は、Windows Server[®] 2008、Windows Vista、さまざまな Linux 製品を含む 30 種類以上のゲスト OS をサポートしており、仮想マシンの迅速なプロビジョニングが可能です。実績のある安定したテクノロジーを使用して、VMware Server は最新世代のサーバハードウェアの組み込み仮想化機能を活用し、さらに高いパフォーマンスを実現します。

メリット

- 新たにハードウェアを用意しなくても、追加のサーバを数分でプロビジョニング可能
- Windows、Linux、Solaris[®]、および NetWare[®] のオペレーティングシステムとアプリケーションを同じ物理マシン上で実行
- 物理サーバの CPU 使用率の向上
- 再構成をすることなく、物理サーバ間で仮想マシンを移動
- ボタンをクリックするだけで、仮想マシン全体の状態をキャプチャし、元の状態にいつでもロールバック可能
- エンタープライズクラスの製品サポートを購入可能
- 仮想マシンを容易に VMware Infrastructure に移行

仮想マシンについて

仮想マシンは物理コンピュータと完全に分離されたソフトウェア コンテナで、独自のオペレーティングシステムとアプリケーションを物理コンピュータと同じように実行できます。仮想マシンには、ソフトウェアベースの独自の仮想 CPU、RAM、ハードディスク、NIC (ネットワーク インターフェイス カード) などが含まれ、物理コンピュータと同様に動作します。

VMware Server の使用方法

VMware Server を使用すると次のことが可能になります。

- 1 台の仮想マシンを構築し、これを基に複数の仮想マシンを展開することにより、サーバのプロビジョニングを迅速化
- インストールや構成を変更することなく、すぐに利用可能な仮想マシンでソフトウェアを容易に評価
- システム管理者による安全な仮想マシン環境上でのテストの実行、スナップショット機能を使用したクリーンな状態へのロールバックが可能のため、パッチ適用、新しいアプリケーション、およびオペレーティングシステムの評価およびテストが簡素化
- 新しいハードウェアおよびオペレーティングシステム上で、Windows NT Server 4.0、Windows 2000 などのレガシー オペレーティングシステムを実行する仮想マシンを再ホスト
- Virtual Appliance Marketplace (英語サイト) で提供されている、仮想ハードウェア、オペレーティングシステム、アプリケーション環境など、即座に実行可能な事前構成済みの仮想アプライアンスを活用

VMware Server の仕組み

VMware Server は、Windows または Linux ホスト オペレーティングシステム上で単独のアプリケーションとしてインストールし、実行します。軽量の仮想化レイヤーにより物理サーバのパーティショニングを行うことで、1 台のサーバ上で複数の仮想マシンを同時に稼働させることができます。物理サーバのコンピューティング リソースは統合されたプールとして扱われ、仮想マシンへの割り当てを制御することができます。VMware Server では、各仮想マシンがホストマシンおよび他の仮想マシンから分離されるため、他の仮想マシンで問題が発生しても影響が及ぶことはありません。また、仮想マシン間でデータの漏えいが発生することもなく、アプリケーションは、設定されたネットワーク接続でのみ通信できます。VMware Server は、仮想マシン環境を一連のファイルとしてカプセル化します。これにより、バックアップ、移動、および複製を容易に実行することが可能です。



VMware Server は、物理サーバを複数の仮想マシンにパーティショニングします。

VMware Server 2 の新機能

オペレーティングシステムのサポートの拡大：VMware Server では、新たに Windows Server 2008、Windows Vista® Business Edition および Ultimate Edition (ゲストのみ)、Red Hat® Enterprise Linux 5 および Ubuntu 8.04 をサポートしています。また、一部の Linux 製品については、準仮想化モードもサポートします。

64 ビット オペレーティングシステムのサポート：64 ビット サーバハードウェア上で 64 ビット ゲスト OS を使用することにより、優れた拡張性と高いパフォーマンスを備えるコンピューティングソリューションを実現します。また、VMware Server 2 は 64 ビット Linux ホスト オペレーティングシステム上でも実行可能です。

Web ベースの管理インターフェイス：新しい Web ベースのユーザー インターフェイスにより、柔軟性に優れ、シンプルで直感的に使用可能な、生産性の高い仮想マシンの管理環境を提供します。新しい VMware Remote Console により、Web ベースの管理インターフェイスに依存せずに、仮想マシン コンソールにアクセスできます。

スケーラビリティと柔軟性の向上：仮想マシン 1 台につき最大 8GB の RAM および最大 10 枚の仮想ネットワーク インターフェイスカードをサポートします。また、USB 2.0 デバイスからのデータ転送速度の向上、実行中の仮想マシンへの新しい SCSI ハードディスクおよびコントローラの追加が可能です。

Volume Shadow Copy Service (VSS) のサポート：スナップショット機能を使用する際に、Windows 仮想マシンの状態を適切にバックアップし、仮想マシン内で実行中のアプリケーション データの整合性を維持します。

VMware Server の入手方法

VMware Server は、次の Web サイトからダウンロードできます。
<http://www.vmware.com/jp/products/server>

追加情報

業界をリードする本番環境で利用可能な仮想化ソフトウェアとして、あらゆる規模のお客様にご利用いただいている VMware Infrastructure をぜひご検討ください。デスクトップからデータセンターに至るまで、業界標準の IT 環境を最適化および管理することが可能になります。VMware Infrastructure は、組み込み型の管理機能、リソースの最適化、アプリケーションの可用性、および運用の自動化などの機能を備えており、コスト削減に加え、効率性、柔軟性、および IT サービス レベルを大幅に向上します。VMware の仮想マシンは VMware Infrastructure 製品ライン全体で完全に互換性があるため、VMware Server のユーザーが VMware Infrastructure へ移行を行った場合でも、それまでの投資を有効活用できます。

製品仕様とシステム要件

製品仕様とシステム要件の詳細については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.vmware.com/support/pubs/server_pubs.html
 (英語サイト)